

(5) 地域の復興・再生に向けて

東日本大震災の発災後、国内はもとより世界各地から多くの人的・物的支援が被災地に寄せられました。震災の被害と原子力発電所事故の被害を同時に受けることになった福島県でも、地域の復興・再生に向けて、様々な取組が進められています。その中には、中学生や高校生が中心となっているものもあります。

ふくしまからのメッセージ

福島県の高校生の言葉



(出典) 第35回全国高等学校総合文化祭(ふくしま総文) 総合開会式構成劇(平成23年8月)

福島に生まれて、福島で育って、福島で働いて、福島で結婚して、福島で子供を産んで、福島で子供を育てて、福島で孫を見て、福島でひ孫を見て、福島で最期を過ごす。それが私の夢なのです。あなたが福島を大好きになれば幸せです。

不安な日々が続き、なかなか前へ進めない、何も出来ないいら立ちもある。それでも、一歩ずつでも、少しずつでも、前へ進みたい。大きな一歩じゃなくてもいいから……。小さな小さな一歩でもいいから、勇気を出して踏み出そう。俺たちには支えてくれる仲間がたくさんいる。共に手を取り合い、今を精いっぱい生きて、すてきな未来を必ずつくるんだ。

やまない雨はない。明けない夜はない。平和なときには気づけなかった「本当に大切なもの」。俺にとっては兄弟でした。何があっても守りたかった。あなたにとっては、誰ですか。気付けましたか。今、気づくことが出来たその気持ちを絶対に、絶対に忘れないでください。



福島県の未来を担う子供の育成に向けた取組

国、福島県及び県内の市町村、他の都道府県及び市区町村、国内外の教育・研究機関、民間団体、企業、国際機関等の支援によって、福島県の子供たちの育成を支援するさまざまな活動が進められています。東日本大震災と原子力発電所事故によって福島県の子供たちは日常生活に大きなストレスを抱えています。子供たちがよりよい環境のもとでのびのびと学んだり遊んだりしながら、リフレッシュを図ることはとても重要です。

例えば、福島県では「ふくしまっ子体験活動応援事業」により、子供たちが心身ともにリラックスした環境の中で、自然・環境、生活・歴史文化、スポーツなどの体験活動や移動教室に参加しています。

「スポーツこころのプロジェクト 笑顔の教室」で笑顔を見せる有森裕子さんと子供たち(福島県相馬市)



再生可能エネルギーによる地域の復興・再生

国は、福島県の沖合約20kmに大型の浮体式洋上風力発電施設を設置し、世界初となる事業化を目指して実証研究を進めています。風車の設置場所の新たな可能性を拓く沖合での風力発電について、国産の高度な技術を結集して、魚類の生態系などにも配慮しつつ、事業を実施しており、再生可能エネルギーを活用した地域の復興が期待されています。

このほか、福島県郡山市で、産業技術総合研究所が「福島再生可能エネルギー研究所」を設立し、太陽光、風力、地熱・地中熱、水素などを研究テーマに、国内外の機関と共同で再生可能エネルギーの研究開発を進めています。



浮体式洋上ウィンドファーム 実証研究事業



- ★ 被災地の復興・再生に向けて、中学生や高校生(自分)ができることを考えてみよう
- ★ 持続可能な社会を実現するために、日本の資源・エネルギー開発と環境保全などをどのように進めていくのかについて考えてみよう